

予 算 要 求 資 料

令和4年度9月補正予算

支出科目 款：農林水産費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 森林整備推進事業費補助金（公共つぎたし）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 整備係 電話番号：058-272-1111(内3194)

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 32,827 千円 (現計予算額： 116,037 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	116,037	0	0	0	0	0	0	0	116,037
補 正 要求額	32,827	0	0	0	0	0	0	0	32,827
決定額	32,827	0	0	0	0	0	0	0	32,827

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

第4期森林づくり基本計画において、5か年間で人工造林3,100ha、間伐48,000haを目標としている。森林の公益的機能の高度発揮、災害に強い森林づくりの推進、木材の安定的な供給による林業・木材関連産業の振興を目指している。

令和2年度は本事業とあわせて林業成長産業化森林整備事業等を活用して人工造林、鳥獣害防除施設等整備、森林作業道整備等を実施した事業者に県単独嵩上げにより支援している。

森林整備への支援をすることで、再造林の促進、次世代に向けた森林資源の確保を図る必要がある。

(2) 事業内容

(ア) 事業目的・事業効果

資源循環型の森林づくりの推進を図るため、木材生産林における人工造林、保育（下刈り、雪起こし）及び再造林と一体で行う長獣害対策の取組みについて、森林整備事業への県単独嵩上げにより支援することで、再造林を促進し次世代に向けた森林資源の確保を図る。併せて、森林作業道整備については再造林も対象とし、次世代に向けた木材生産林育成の効率化を図る。

(イ) 内容

補助対象：人工造林、下刈り、雪起こし、鳥獣害防除施設等整備（人工造林と一体で行うものに限る）、鳥獣誘因捕獲、森林作業道整備

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・人工造林、下刈（1 齢級まで）、雪起こし（1 齢級まで）：
標準事業費の85%（うち県単独嵩上げ17%）
- ・鳥獣害防除施設等整備（人工造林と一体で行うものに限る）、鳥獣の誘因捕獲：
標準事業費の100%（うち県単独嵩上げ32%）
- ・森林作業道整備（間伐・更新伐又は人工造林と一体的に実施されるものに限る）：
標準事業費の80%（うち県単独嵩上げ12%）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	32,827	人工造林、下刈り、雪起こし 鳥獣害防除施設等整備、鳥獣誘因捕獲 森林作業道整備
合計	32,827	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期森林づくり基本計画において、100年の森林づくり計画実践プロジェクトとして県単嵩上げによる主伐・再造林の支援が位置づけられている。

(2) 国・他県の状況

34都道府県において同様の事業を実施している。

(3) 後年度の財政負担

計画的な森林整備のため、適正規模の財政負担が継続的に必要である。

(4) 事業主体及びその妥当性

(1) 事業主体

市町村、森林組合、生産森林組合、森林整備法人、森林所有者等
*森林整備事業に同じ

(2) 妥当性

国補助金交付要綱による

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	森林整備推進事業費補助金（公共つぎたし）
補助事業者（団体）	市町村、森林組合、生産森林組合、森林整備法人、森林所有者等 （理由） 森林整備事業に同じ。国補助金交付要綱による。
補助事業の概要	（目的） 再造林を促進し次世代に向けた森林資源の確保を図る。 （内容） 森林整備事業費補助金のつぎたし
補助率・補助単価等	定率 （内容） 人工造林、下刈、雪起：17% 鳥獣害防除施設等整備、鳥獣の誘因捕獲：32% 森林作業道整備：12% （理由） 木材生産林育成を促進するため。
補助効果	再造林の促進
終期の設定	終期 R8年度 （理由） 第4期森林づくり基本計画の終期

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか 第4期森林づくり基本計画に基づき、森林整備について5か年間で人工造林3,100ha、間伐48,000haを実施する。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R2)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①人工造林面積 (ha)	185	185	450	300	1000	
②間伐面積(ha)	6,871	6,871	9,800	9,600	9,600	

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度
	84,403	100,702	104,745

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 森林整備事業では人工造林を185ha、間伐を6,871ha実施した。 57.6千m³の木材が搬出された。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	第4期森林づくり基本計画の達成に向けて、次世代に向けた森林資源の確保や間伐材等の安定供給の確保に向けて、再造林や間伐等の森林整備及び路網整備を推進することは重要であり、事業実施の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価) 2	第3期森林づくり基本計画の目標数値には及ばなかったが、人工造林185ha、間伐6,871haと概ねの成果が得られた。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	標準単価を用いて補助金額を算出するほか、森林情報システムの活用により事務の効率化が図られている。 事後申請方式を採用することで適期の施業にも対応できる仕組みとなっている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 再造林の推進にあたっては、苗木の確保や再造林のさらなる低コスト化が必要であり、技術開発や普及の推進を図ることが必要である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 第4期森林づくり基本計画の目標達成にむけて、再造林、間伐及び作業道整備等を推進していく。
--